

知事コメント

令和3年8月12日(木)

本日県内で新型コロナウイルス感染症陽性者732名が確認されました。これは8月5日(木)に確認された過去最多の新規陽性者数648名を更新し過去最多の新規感染者数となります。県内の流行は感染力の強いデルタ株にほぼ置き換わったとされており、未だ流行のピークは見ておりません。

ピークが見通せない中、特に本島内の医療機関では、残りわずかな緊急用の重症病床を除いて、ほぼ満床の危機的な状況にあります。入院調整も非常に困難な中、自宅で療養されている方も急増しており、医療崩壊の危機が目の前に差し迫っていると言わざるを得ません。

県は、県民の命を守るために、医療機関に病床の確保をお願いするとともに、8月1日より入院先調整が困難な事例に対して、患者が一時的に待機し酸素投与などの措置を行える体制として「入院待機ステーション」を開設しております。

加えて、本日より新たに中部地区に宿泊療養施設を開設し、フォロー体制の拡充に取り組んでいるところですが、これらの施設での業務に従事する医療人材の確保が喫緊の課題となっております。

これらの医療人材の不足に対して、県は7月27日に厚生労働省、8月6日に九州知事会、10日に全国知事会に対して、医師及び看護師の派遣を要請致しました。すでに厚生労働省関係機関より28名、知事会より、大分県、佐賀県及び島根県から看護師4名を派遣することを決定したとの回答を頂いております。

また、本日陸上自衛隊第15旅団へ、医師・看護師の支援要員の派遣により人員体制が確保されるまでの間、看護官等による医療支援を頂けるよう災害派遣要請を致しました。本日から8月25日(水)までの間、入院待機ステーションへ看護官5名を派遣して頂くこととなっております。

全国的な感染拡大により、医療人材の不足が顕著な中、要請に応じ派遣を早期にご決定頂いた厚生労働省関係機関、知事会、陸上自衛隊第15旅団の皆様、誠にありがとうございます。また、沖縄県看護協会及

び県内医療機関からは第4波より継続して応援を頂いていることに改めて感謝申し上げます。

沖縄県は、県民の命を守るための医療提供体制の維持に全力を尽くして参りますので、何卒引き続きお力添えをよろしくお願いいたします。

現在県は緊急合同メッセージの発出により、2週間の短期集中での取り組みを呼びかけている所であり、同メッセージの発出を受け、多くの企業で社員の方々へ対策の周知を改めて呼びかけて頂いており、また、更なる感染対策強化として、この期間の出張や営業訪問の自粛、会合は全てオンラインに切り替える等の対策に取り組んでいる企業もあると伺っております。

県内各市町村においても、沖縄市や那覇市を始め、積極的に感染対策を呼びかけて頂き、報道機関におかれましても、番組テロップを利用した情報発信などのご協力を頂いております。

感染拡大の勢いは先週よりも弱まっておりますが、医療提供体制のひっ迫は極めて深刻であり、県は、本日対策本部会議を開催し、新たな感染対策について協議し決定致しました。

まず、感染症対策の最大の切り札であるワクチン接種について、今月末までに全人口の50%にあたる74万人、10月末までに70%にあたる104万人以上への1回目の接種を目指しワクチン接種の基本方針を作成致しました。

ワクチンについては、第4波と比較してワクチン接種の進んでいる高齢者世代の感染が抑えられており、その効果とみられております。ワクチン未接種の方におかれましては、接種について、是非積極的なご検討をお願い致します。

県は安全安心な島沖縄を一日も早く取り戻し、県民生活と経済を取り戻すため、市町村と連携協力をしながらワクチン接種の更なる加速化に取り組んで参ります。

なお、基本方針については、県ホームページ特設サイトに掲載しており、こちらでご確認頂けますので宜しくお願い致します。

また、人と人との接触機会を低減する為、美ら海水族館など県立施設の原則休業は8月31日まで引き続き休館としております。

今週、来週とお盆の時期を迎えますが、親戚訪問は控え、電話やオンラインを活用し、同居家族だけでお盆をお過ごしください。

加えまして、感染拡大を一刻も早く抑え込むために、全庁で感染防止対策に取り組む「感染拡大抑制等プロジェクト」についても取り組んで参ります。

先んじまして、沖縄県の公式YouTubeチャンネルやOCVBのホームページなどにおいて、沖縄県をホームとして活動するプロスポーツチームの選手により、県民の命を守り、一日も早い新型コロナウイルス感染症拡大の収束を図るため、県民の皆様へ徹底した感染拡大防止や積極的なワクチン接種を呼びかけていただいております。

商工労働分野においては、県、市町村、商工会議所、商工会、産業振興公社等が連携し、地元企業訪問や電話等により、①懇親会など飲食を伴う集会の自粛、②従業員の皆様への感染予防に係る情報周知や③健康管理の徹底など呼びかける取り組みをはじめております。

地域の産業を守るため、関係機関と連携し危機感を共有することで、感染拡大抑制プロジェクトの和を広げて参ります。

また、デルタ株への置き換わりと共に、従来感染しにくいと言われていた子ども世代への感染が拡大しており、子どもでも症状が悪化する事例が増加しています。本日8月12日で10歳未満が85人、10代が83人、20代が183人、30代142人、40代98人の計591名となっており、子どもとその親にあたるであろう世代の感染者で全体の80.7%を占めています。

県としまして、保育所や放課後児童クラブ等への抗原簡易キットの導入や現在学校を対象としているPCR検査を保育所へ拡充するなど、関係部局連携し、「学校や保育所等で感染させない」「家庭内で感染させない」という子どもたちを守るための取り組みをすすめてまいります。

子どもを守るのは大人の責任でもあります。家庭内で感染させないために、子どもを守るためにその親の世代である人たちには感染対策を徹底してください。

教育庁においても、家庭内感染予防の周知徹底のため、予防対策について各学校のホームページへの掲載、メール等により各家庭への協力を依頼しており、市町村教育委員会から全ての学校の実施状況を確認しているところです。

また、部活動についても引き続き原則休止とし、特別に認めた場合でも、時間制限や最少人数としております。

外出自粛により自宅にいるこどもたちに、学びの保障として、県立図書館におけるステイホーム促進に繋がるサービスの実施や、各学校を通して文部科学省のWEBコンテンツ「子どもの学びサイト」の情報発信を行っているところです。

引き続き学校や家庭での感染防止対策に取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症は恐れるべき感染症です。現在呼吸困難による救急搬送依頼が増加しておりますが、入院調整に従来よりも時間を要しております。20代、30代の若い世代でも酸素投与などの治療が必要な状態まで悪化する事例が増えています。治った後も後遺症に苦しむ人もいます。感染すれば、あなたがその一人になるかもしれません。

県民の皆様。感染対策に取り組むのは、あなたがあなた自身や大切な人を守る為に必要なことです。

自分と家族を守るために、職場やその家族を守るために、繰り返しになりますが、あなたができる感染症対策を徹底して行ってください。頑張ってください。

社会を支えるための対策をよろしくお願いいたします。